

サロン あべの



さろん亭

〈サロン・あべの〉 8月の出会い

平成19年8月5日(日)、〈サロン・あべの〉8月の出会いは恒例の「あべのカーニバル」での「さろん亭」の開店です。

今年で34回になる「あべのカーニバル」ですが、いつものことながら、気になるのはやはり当日の天気です。連日の猛暑が続く中で、この日は晴れた良い天気となりました。

当日の午後1時ごろから、「さろん亭」の開店準備のため、「あべのカーニバル」の会場である市立工芸高校のグラウンドへ向かいました。グラウンド内の「なんでも市どおり」の中では多くの店が出店します。その一角に赤と白のラインのテントの「さろん亭」の中では皆さんから提供していただいた品物がところ狭しと並べられています。

お待たせしました。午後3時、

お知らせ

<サロン・あべの>10月の出会い

内 容…私の地域活動と歌たいそう
 -コミュニティ・コミュニケーション
 入門/サロン・あべの-
 お客さま…森 輝代さん
 (「さわやか18」代表)
 日 時…10月20日(土)午後1時~4時
 場 所…育徳コミュニティーセンター2階
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)
 大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
 TEL 06-6621-1901
 最寄り駅=
 地下鉄御堂筋線「西田辺」
 下車すぐ
 会 費…なし
 問い合わせ先…
 TEL 06-6691-1028 (富田慶子)

—「市民フォーラムおおさか」協働事業—

昨年まで、ボランティア・NPO・企業・労働組合・行政が一体となって開催されてきました「市民フェスタおおさか」が衣替えをして、「市民フォーラムおおさか」として第2ステージに進みました。

これは、これまで1カ所で開催されていたお祭りのイベントから「地域」を軸に、住民の様々な活動を考え、誰もが住みよいまちづくりの実践を共有していこうというものです。

この活動に、<サロン・あべの>は豊かなコミュニティづくりと地域の人たちとのつながりを考えたいと思い、<サロン・あべの>10月の出会いは、「市民フォーラムおおさか」の協働事業として参加しています。

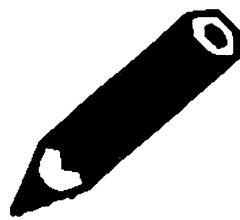
いよいよ「さろん亭」が開店しました。販売が開始されます。店頭ではお客さんとのにぎやかな、活発なやりとりが交わされます。まだ十分に準備も出来ていないうちから、早々と、掘り出し物がないか、お買い得な物はないか、品定めをしに来られる気が早い方もいらつしゃいます。

オルなどは大人気で、まとめ買いをされる方もおられます。あれやこれや「見てるだけ・・・」の方があるかと思えば、一度購入されて、一回りして戻ってこられて、また、お買い上げいただいた方も。

グラウンド中央では、地元のア倍野区内の中学、高校の吹奏楽部の演奏などさまざまなイベント。今年度は、地元の「さろん亭」のテナント内では、売れるごとに奥の品物を店先に並べていきます。そして活況のうちに、無事に閉店となりました。

毎年のことなのですが、品物を寄贈していただいた方、前日の値札付けや品物の搬出入や暑い日差しの中、当日の販売のお手伝いや後片付けなど本当に多くのみなさんにお世話になりました。今年も多謝の気持ちを込めてお話しになりました。今年も多くのみなさんに支えられた（サロン・あべの）8月の出会いでした。（山村貴司）

40



邦子、 ..ん歳の手習い。

パークレー旅行⑤

パークレー障害者自立生活の祝賀会には、前にインタビューさせて頂いたことのある、重度脳性マヒ者のヘイルズ・カスさんもおられたので、会終了後にほんの少しお話ししました。ヘイルさんは言語・身体ともに重度の障害者で世界障害者研究所(IIWID)の研究員です。WIIDは、パークレー自立生活運動の中で生まれた研究所です。ヘイルさんは、ヘルメットにスティックをつけて、そのスティックで電動車イスやその車イスのテーブルに取り付けた文字盤を自在に操作し、いつも1人で外出していました。最後にお会いし

た10年前と変わらず、今回もヘルメットをつけたスティックで前と変わらない簡素な文字盤をさして話してくれました。近くにいたヘイルさんの知り合いの方が、通訳してくれて、名刺のあるところを捜すのも時間がかかるという感じでしたが、それでもいららするということ感じでもないヘイルさんに、自立にはこういうゆつたりしたものが必要なのかなと思いました。

自立生活の父といわれた故エド・ロバーツのお母さんも出席されるということで、そのスピーチを楽しみにしていたのですが、なかったのが残念でした。エド・ロバーツが大学に入り自立生活運動を始めるまで、いっしょに陰で支えて運動してきたのがお母さんでした。また、その後も、大学で自立生活を始める障害者の悩みを聞いたり相談にのり、皆さんの母親がわりの役割で陰で援助していったということでした。

また夫の死をきっかけに、パークレー大学に入学し、60歳頃に修士もとったというお話も聞いています。若い頃には、労働運動にも関わっていたという背景も、そのようなエネルギーにつながっているのだと思います。スピーチはなかったですが、テーブルで回りの方たちと楽しそうに話されていた、目立つこともなく、普通のお母さんというイメージが心に焼き付いています。

(定藤邦子)

ありがとうございました。

カンパ、はがき・お菓子・お茶・バザー用品の寄贈、また、サロングッズのお買い上げ、バザー用品の値段付けや販売、搬送のお手伝いなどありがとうございます。

カスタネット(竹下・松村・宮脇)、阿倍野区肢体部会カークラブ(清水・竹下・山梨)、生島将光、池田多喜子、伊勢村和子、井上礼子、大北清子、岡賀寿子、奥田真祐美、大原みつ子、加賀谷正、風智恵子、黒羽玲子、桑田加代子、目和子、佐本日日出子、高尾澄男、豊谷浩伸・良子、田辺サカエ、千葉政子、千代松真佐子、辻本輝子、辻本浩江、富田慶子・十一、富田萬里子、原田咲子・友弥・博子・仁、久木浩、表谷恵美子、藤井さゆり、松本克代、丸山寿美子、宮崎喜代子、山崎時代、山村貴司・久子、山本敏子、吉原和郎、その他の方々。(敬称略)

サロンの絵はがき

一組五枚セット 一八〇円

息子の名前



久しぶりに父とむかいあつて話していたら、三十数年前、リストラの対象になりかけて、遠方の工場に転勤を命じられそうになったという。そんな話は私には初めてのことなので、身乗り出して聞いていたら、「あれが夢前（ゆめさき）の高校まで通っていたからなあ」という。会社が、せつかく息子がその高校に入ったからというので、配置転換を

免除してくれたというのである。夢前（ゆめさき）というのは、私の実家に近い地域の名前であるが、私の高校は夢前には無かった。いったい誰の話をしているのだろうと思つて「誰がその高校に行つていたの」と聞くと、「いやあ、誰だったかなあ」と言つて恥ずかしそうに笑っている。どうやら息子の名前も忘れてしまったらしい。

「トモフミじゃないの」と、

私は自分の名前を言つてみた。

「ううむ、そうやったかなあ」と父は首をかしげる。赤面しているようにも見える。「いや、それは、あそこの子だろう」と言つて、自分の生まれ育つた家のことを話す。父方の従兄弟（いとこ）が私と似たような名前なのである。「あれはトモノリさん」と私が言う

と、「そうだったかなあ」と納得しない様子である。「あ、ミツか！」と父は思い出したように言う。「ミツオさんでしょ。あの人はお父さんの弟だよ」と私は答える。頭を抱え込んだ父に向かつて、私は「トモフミだよ。だつて、ボクがお父さんの息子なんだから」と言う。初めての経験だったが、静かに優しく伝えられたと思う。

父は、また赤面して「ああ、そうでしたか。子どもの名前も忘れてしまつて本当に申し訳ないことです」と他人行儀の言葉を

好評のエッセイ

岡 知史著

知らされない
愛について

700円

ほんの少しの
神に近い部分

700円

駐車許可証

車社会になって自宅に車を持っている人には、便利な世の中になりました。私も車を持ち運転される人には、あちらこちらと連れていただき楽しませていただきました。また、サロンでも多くの方々に、車でいろいろとお世話になっています。家の前から目的地までそのままで行けるのですからこれほど楽な移動はないわけです。ところが昨年より大阪市内は駐車禁止地域が拡がり、取り締まりも厳しくなり、車での移動も難しくなってきました。電動車いすで出かけるとき、リフト付きの福祉タクシーを利用する場合がありますのですが、運転手さんは目的地のどこへ停めようかと苦勞されます。それらのことがいつも気になっていたのですが、このほど個人や車いす移動専用車等にも「駐車禁止除外指定」が交付されることを知りました。平成19年8月1日、大阪府道路交通規則の改正により今までの「駐車禁止除外指定」車標章の交付方法や交付対象、駐車許可が変わったそうです。今までは、車両に対して交付していたものを身体障害者など本人に対して「駐車禁止除外指定」が交付されるそうです。福祉タクシーなどを利用する時も、持っていると乗降時にあわてることなく過ごせそうです。対象者は、等級指定はありますが視覚・聴覚・肢体・内臓疾患・知的・精神障害などの方々と、等級指定なしの色素性乾皮症患者・戦傷病者の方々です。もちろん、交差点の前後やバス停近くなど駐車除外場所などには、許可証があっても停められない場所もあるわけですので、「駐車許可証」を申請される時に確認してください。これは大阪府内の話です。お問い合わせは大阪府警察本部駐車対策課か、所轄の警察署の交通庶務係りにお願いします。(け)

まきみみずきん

つかって、笑いながらも深々と頭を下げた。父から頭を下げられたのは生まれて初めてだ。「ああ、そうやったか」と嘆息し、また「いや、申し訳ない」と再び頭を下げた。「もう、いいですよ」と私は微笑んで答えた。

息子の名前が思い出せなくて、自分の甥や弟の名前を口に出したとき、父は誰と話しているつもりだったのだろう。たぶん私のことを自分の息子だとも理解していなかったのだ

はないか。

私が自分でも驚くほど冷静に、この会話を進められたのは、いずれ近いうちにこうなるだろうと予想していたからである。また、ある認知症患者のエッセイ(*)を読み、患者は家族が誰であるかわからなくなったときでも、その人が自分にとって大切な人なのか、特別な人なのかどうかはわかるということを私は知っていたからだと思う。

私が自分の息子であることがわからなく

なっても、自分にとって特別な人だと思っていたからこそ、リストラに遭(あ)いそうだったころの思い出を話してくれたのだろう。

父は、当時、高校生だった私には、そんな話はしなかった。そう思えば、私は、以前よりももう少し父の近くにいるのかもしれないのである。

(知)

(*)クリスティーン・ブライデン(二〇〇四年)『私は私になっていく』クリエイツカ

Mai スウェーデン 留学記 12

第2の故郷へ

今回は、スウェーデンを離れ、私の第2の故郷ともいえるデンマークでのことを話したいと思います。

スウェーデン語サマーコースが終了し、ヴェクシヨー大学の授業が始まるまで10日間ほどの時間がありました。大学側は、到着期間より早く寮に入ることにはできないということで、思い切つて、ある場所にメールを送っていました。第2の故郷ともいえるデンマーク、その国民高等学校の学院長へ。「1週間、

泊めてもらえますか？」

という私

に快くO

Kしてく

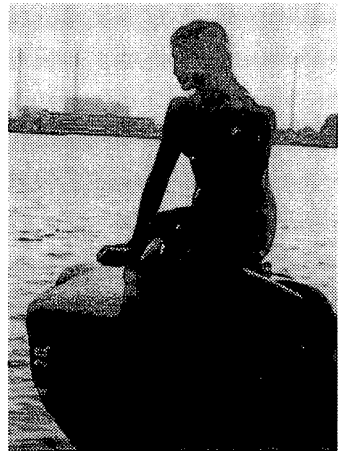
れたので、しば

らくスウ

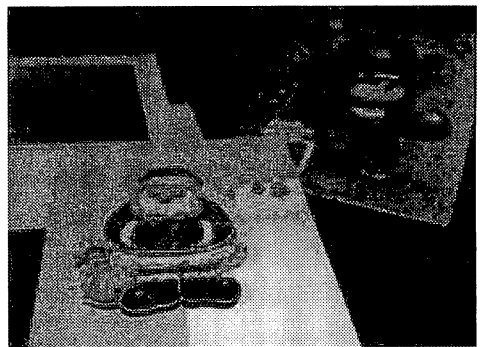
エーデン

人の知人

宅で過ごしてから、すぐにデンマークに向かいました。国民高等学校は、北欧では成人教育として当たり前で、スウェーデンにもたくさんあります。資格はなく、18歳以上であれば誰でも入学でき、もちろん試験もありません。寄宿舎、食事つきで共に学ぶ友達と刺激しあうのです。学びたい人だけが学びたいコースで学ぶ、日本のように資格を求め、高学歴を求める教育とは大きく違います。スウェーデンの教育のあり方だと感じます。スウェーデンの国民高等学校は、夏はスウェーデン語のコースを設け、外国からもスウェーデン語を学



人魚姫の像
(デンマーク・コペンハーゲンにて)



デンマークで知り合ったローネからの手紙

びたい人たちを受け入れており、私も1度国民高等学校で学びました。その他、音楽や銀細工コース、芸術コースなど多岐に渡っています。もともと北欧の福祉に関心を抱いたのは、18歳のとき大学の福祉短期研修でこの国民高等学校で福祉を学ぶためにデンマークに行つたからでした。学校の日本語名は「日欧文化交流学院」。日本人である学院長は、何度も講演のために帰国しているので、ご存知の方もしらっしゃるかもしれません。居心地がよく、私の第2の故郷となりました。それから



風車と麦畑（ドイツに向かう列車の中から）
デンマークは郊外に行くとこのような風景
がずっと続きます。



日欧文化交流学院周辺（デンマーク・ボーゲンセにて）

毎年のようにその研修に参加し、デンマークに行くようになったので、よく学院長に「舞のためにこの研修はあるんだなあ」とからかわれていたのです。

そこで出会ったデンマーク人の家族はとても優しく、私を本当の娘のようにかわいがってくれ、第2の家族となりました。スウェーデン留学も、福祉を学ぶという目的もありましたが、スウェーデンとデンマークは近い。その家族に会いにデンマークに行けるという考えがなかったわけではありませんでした。

さて、5回目のデンマーク行きになって、電車に揺られてスウェーデンからデンマークに向かいました。大学のときに行った研修は団体行動なので、いつも理事長が迎えに来てくれたので、正直、初めて公共交通機関を使つての旅となりました。首都コペンハーゲンに到着してから、すぐに電車を乗り換えまして。ユトランド半島方面行きの電車に揺られて約2時間。コペンハーゲンのある島、シエラン島から世界で2番目に長い橋を渡り、デンマークの真ん中の島、フン島にあるアンデルセンの生家の町、オーデンセを目指しました。

大荷物を抱えた車掌さんが、空いている座席を教えてくれ、座るよいうに言ってくれました。窓から見える景色は、いつ見ても変わりません。日本だと、1年も見なければすぐに

景色が変わってしましますが、ヨーロッパはいつも同じ姿を見せてくれます。もちろん少しずつは変化しているのですが。ようやくオーデンセの駅に到着したのは、もう夕方。学院の夕食の時間に間に合わなければ、食事できないので、軽くサンドイッチやサラダを買い込みます。オーデンセの駅からバスに乗り、さらに35分。デンマークのバスは車内案内がないと聞いていたので、バスの運転手さんにあらかじめ、目的地に着いたら教えてくれるように頼みました。夕日に照らされ金色に輝く麦畑と白い風車の間を走っていくのは、私の大好きな風景です。ようやくバスは運転手さんに教えてもらい、到着したのは夜の7時過ぎでした。

到着すると、数人の障害のある人達がブランコに乗って興味深そうに私を見ていました。学院長にキャンプファイヤーに誘われたので、疲れてはいましたが、私も参加してみました。障害者コースを作ったらしく、軽度の知的障害の人達がたくさん参加していました。どこに座ろうか迷っていたら、私の近くにいた障害のある女性が黙って毛布を広げて

くれ、そこに座るように言ってくれました。すべてデンマーク語なので、私にはさっぱりわかりませんでした。この日から1週間、スウェーデンに戻るまでの間、学校の食事の後片付けや掃除、学院長の雑用をしながらここで生活することになりました。

デンマーク語がわからないので、なかなか話には入っていきませんでした。障害者の人達も私を観察しているようで、「日本から来たスウェーデン語がわかる変な子」と思っていたと思います。興味はあるらしく、いつも私の様子を伺っていました。言葉がわからず完全にコミュニケーション障害な私を見て、学院長が「どうだ？ 彼らと話しているか？」と声をかけてくれました。「でも先生、私、デンマーク語が全然わからない」と弱音を吐いた私に、「デンマーク語だろうとスウェーデン語だろうとともとは同じ言葉だよ。よく聞きなさい。同じ単語がたくさんあるから」と簡単に言ってくれました。ハッとさせられました。私は大切なことを忘れていたのです。日本ではスウェーデン語、スウェーデン語・・・ずっとそれにこだわるように

言われてきて、いつの間にか、1番大切な言葉を「聞く」ということを忘れてしまっていたのです。スウェーデン語であれ、デンマーク語であれ、英語であれ、日本語であれ、単なるコミュニケーションの手段の一つにしかすぎません。そんな簡単なことも頭に思い浮かばず、ずっと私は壁を自分から作ってしまっていたのだと思います。それでは敏感に感じる知的障害の方達が話しかけてくても話しかけられないのは当たり前でした。

それからデンマーク語も一生懸命聞くようになりました。「わからない」で止めてしまいうのではなく、わからなくても「聞く」のです。そうすれば、なんとなくスウェーデン語にも共通した単語が出てくるのがわかりました。障害のある人達もどんどん話しかけてくれるようになりました。もちろんデンマーク語で。「元氣？」「ええ、元氣よ」と答えた私。もちろんスウェーデン語で。お互い笑顔でした。通じているのです。彼らとコミュニケーションが、心が通じた瞬間でした。どんな話しかけてくる障害のある人達。私はようやく彼らと友達になることができたのでし

た。そんな中で、今でも手紙、バースデーカード、クリスマスカードのやり取りをしている女性がいます。名前をローネといい、軽度の知的障害がありますが、とても優しく気配りができる素晴らしい女性です。私が英語とスウェーデン語で書き、彼女はデンマーク語しかできないので、スタッフに英語に翻訳してもらっているようです。よく「舞、舞」と言って話しかけてきて、それにスウェーデン語で答える私との話を楽しんでいました。他の人のデンマーク語がわからず困っているのと、すぐにもっと簡単な単語で私に「通訳」してくれました。

学院長の一言からあつという間に1週間が過ぎてしまいました。ただ「ありがとう」としか言うことができない私に、彼らは泣いて別れのハグをしてくれました。彼らと過ごした1週間。心から楽しかった時間といえるでしょう。私はここで出会った障害の人達から、優しさと忘れていたことをもう1度思い出すという貴重なことを教えてもらったのです。学院長のあの言葉は今も私の心に響いています。

(清原 舞)

晴れのち晴れ-108-

稲垣 恵雄

□ショートステイを終えて

私は7月20日に65歳になったのを機会に自立支援費から介護保険に切り変わった。それに伴ってこれまでショートステイで利用していたA園に行けなくなってしまった。

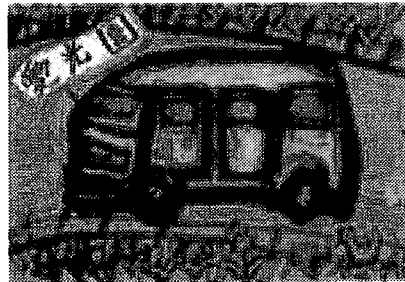
A園では3年間にわたってお世話になった。同園が開設されてまだ5年なので建物も新しく、部屋の窓からは山々が望まれ、周囲にはのどかな田園風景が広がっていて環境も良い。そして50人程の職員はみんな優しくて親切な人ばかりである。

ショートステイでの思い出は枚挙に違がないが、6月の最終日のことが忘れられない。その日の午後になって帰宅時間が近づいてきたので荷物のチェックを終え、部屋から出た。すると5人の職員が私の周囲を囲むようにして、その内の1人の職員が「長

い間、ご利用頂きありがとうございました」と言って、花束をプレゼントしてくれるのではないか。そのあとアルバムにレターセット、それに職員全員が寄せ書きしてくれた3枚の色紙までくれたのである。それに何よりうれしかったことは休暇をとっていた職員のKさんが、私のためにわざわざ園まで出てきて見送ってくれたことだ。

お世話になったこちらがお礼をしなければならぬのに全く逆である。それだけに胸がじーんと熱くなり、思わず涙ぐんでしまった。

職員のみなさん、いろいろお世話になりました。本当にありがとうございました。ご恩は一生忘れません。ちなみにA園とは、八尾市の服部川にある愛光園のことである。



絵がうたうー
絵とうたうー

童謡♪絵はがき

- ・春 ・お正月
- ・夏 ・海
- ・秋 ・花Ⅰ
- ・冬 ・花Ⅱ
- ・汽車 ・子ども
- ・5月 ・雨

もらった人も、思わず、歌いたくなる、うれしい、楽しい「絵はがき」

サロン20周年記念

童謡♪絵はがき

■5枚1組 ¥180

美智子のこんな話

岸田美智子

休日になると、両手足が無くなる!?

私は手足がほとんど使えないので、24時間365日ヘルパーさんが必要です。つまりヘルパーさんは私にとって両手足同然なのです。

現在、介護給付制度の重度訪問介護を395時間と日中の職場では、朝10時から夜の7時までの9時間をアテンド制度(重度障害者雇用促進事業の職場介助員制度)を使っています。夜間のお風呂介助は使にくいマンションでの入浴になるためヘルパーが2人必要です。そんなわけで395時間でも足りず(大阪市は一般は300時間が限度、私の場合非定型となってい

る)、毎月418時間がどうしても必要です。なので、その差23時間はヘルパー事業所の努力で無償派遣を普段からしてもらっています。そのうえに、今はボランティアさんを1週間に3時間半は協力してもらっています。

ところが、祭日やお盆、年末年始など、職場が休みになるとアテンド制度は使えません。もちろん体調不良で休んでも使える制度がありません。住吉区役所や大阪市にも、この間訴えてきましたが今の制度では、個別の状況に対応出来ない課題はあると認識しているが、他の方々もこれでは我慢してもらっている状況なのです。という考え方であり、具体的な案としては先日のお盆の日にもデイサービスを使ってほしいと言っただけでした。そのデイサービスを

実際に問い合わせしてみました。お盆はやっていないところや、定員が一杯で、実際に使えるところはありませんでした。

このような問題はひとつの団体だけで決できるようなものではないと思うのです。ゴールデンウィークなどの祭日がある

月がほとんどですし、お盆や年末年始などはほとんどの社会資源が使えません。ぜひ今後加算制度を考えていただきたいと思えます。

以上のような状況で職場が休みの日は何も使える制度がなく、介護難民になります。ボランティアも、ボランティアピュローに呼びかけてみましたがボランティアは身体介護は出来ない。厚労省が身体介護には資格がいると言っているからといわれませんでした。

これが今の地域福祉の現状です。健常者ならば休日は楽しみのはずですし、よりその人らしく豊かに過ごす時間です。

私たちの障害者の休日は一体いつになったら豊かになるのかと呆然としてしまします。休日になるとトイレにもいけない、食事も出来ない、外出もできない、このような状況を我慢で片付けてよいのでしょうか? 人権問題だと思えます。このような問題にどう取り組んでいけばよいのか、ぜひ関係機関の皆さんに考えていただきたいと思えます。



10月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いませんか。

■「サロン淀川」10月の出会い＝「市民フォーラム
おおさか」協働事業

日 時：10月21日（日）午後1時30分～4時
内 容：昔話を体験してみよう
-お互いに、語る側、聞く側の立場を理解
する-

ゲ ス ト：国眼正子（こくがん まさこ）氏と
お仲間
淀川図書館で、子どもたちに「おはなし
会」を始めて15年になります。

会 費：なし
場 所：淀川区民センター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3
問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビュー
ロー） ☎ 06-6394-2900
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」10月の出会い

日 時：10月27日（土）13時～
内 容：西淀川区社協でボランティア交流会
会 費：なし
問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
☎ 06-6494-0635
中本 ☎ 090-9864-9678

■サロン「アイ」10月の出会い

日 時：10月13日（土）午後1時30分～4時
内 容：未来志向ボランティアのスミエ
-自分が変われば世界も変わる？-
パネラー：金隆明（キンユンミョン）氏
（いくの地域交通ネット）
会 費：なし
場 所：「おかちやま」2階多目的室
大阪市生野区勝山北3-13-20

問い合わせ先：生野区社協（ボランティア・ビュー
ロー） ☎ 06-6712-3101
○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが
出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
☎ 06-6757-8574

■「サロン・にし」10月の出会い

日 時：10月13日（土）午後2時～4時
内 容：手話を学ぼう！（応用編）
場 所：西区在宅サービスセンター第1会議室
大阪市西区新町4-5-14
☎ 06-6539-8075
会 費：なし
問い合わせ先：関口 ☎ 090-4281-5641

■《てくてく・すみよし》10月の出会い

日 時：10月13日（土）午前10時～
内 容：神戸を歩こう
場 所：JR梅田駅中央改札前、梅田駅-三宮駅
会 費：200円（交通費、昼食費別）
申し込み締切り：10月6日（土）
*時間厳守をお願いします。また、障害者手帳をご持
参ください。

問い合わせ先：
山本篤江 ☎ 06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」10月の出会い

日 時：10月7日（日）午後1時30分～4時
内 容：災害備蓄食料の試食会
-災害時の準備と心構え-

ゲ ス ト：横田圭二氏
会 費：なし
場 所：鶴見区民センター3階
大阪市鶴見区横堤5-3-15
問い合わせ先：鶴見区社協（ボランティア・ビューロー）
奥井 ☎ 06-6913-7070

■「サロンいたみ」10月の出会いはお休みです

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第254号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 〈サロン・あべの〉紙は、第1号より第254号までそろっています。
- (b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳DJ)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧ロー二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳DJ)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ほけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳DJ)
- (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳DJ)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳DJ)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
- (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送05.6.26と05.9.18)の録音テープ

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後のDJ印はディジー録音。

寄りみち



8月5日(日)、阿倍野区民祭り「あべのカーニバル」の「なんでも市」に参加した「さろん亭」は、今年も多くのおみなさまからご支援・ご協力を賜り、無事閉店することができました。みなさまのお心に感謝とお礼を申し上げます。この「さろん亭」での売上げ金57,460円は、今後の〈サロン・あべの〉の活動資金として有効に使わせていただきます。暑い中、ほんとうにありがとうございました。(け)

〈サロン・あべの〉VOL. 255 発行：平成19(2007)年9月15日 定価¥100
 編集人：〈サロン・あべの〉運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方〈サロン・あべの〉
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
 ホームページ：<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/> 「サロン あべの」でも検索できます